



編集委員長のあいさつ

森村英典

若輩にもかかわらず編集委員長という大役を私が仰せつかりましたのは、学会誌の改革といういささか体力を要する仕事が日程に上ってきたためと思っております。それで、ここでも、この問題に対する私見を申し上げ、皆様から忌憚のないご意見を承るきっかけといたしたいと存じます。

現在、論文が長期間掲載されない、『経営科学』がおもしろくない、という不満が会員の中にあり、現行の枠組の中ではこれらの不満を解消しきれないと考えた昨年度の理事会では、論文誌と一般誌との分離、一般誌の月刊化等が議論されたと聞いております。その可能性の研究は一部着手されましたが、今年度の編集委員会はその作業を細部にわたって進めるとともに、実行すべきことは実施に移していく責任を負っております。

このため、新編集委員会も討議を始めました。以下に申し述べる内容は、委員のご意見も含んではおりますが、現在のところ、私の個人的考えと申すべきもので、たたき台にすぎませんが、このような方向に進むことに対する皆様のご意見はいかがでしょうか。申すまでもなく、学会誌は学会活動の基本的な道具であり、会員全体のものです。けっして、編集委員のひとりよがりで作られてよいものではありません。1人でも多くの方からご意見を聞かせていただきたいと願っております。

(1) 論文誌（欧文3回、和文1回程度）はB5判で1冊100ページぐらいの活版印刷とし、購読料を会費以外に徴収して希望者のみに配布する一方、掲載料も徴収して論文投稿者の財政的負担を要請するかわりに、掲載待ちの時間の大幅な減少をはかりたいと思います。

(2) 一般誌は月刊とし、会員配布以外にも相当量の一般購読が期待できるような親しみやすく役に立つ雑誌にすることを目標にしたいと考えます。月刊にすることで会費はかなり高くなるでしょうが、季刊では不可能な内容充実が期待できそうに思われます。もっとも、このためには皆様のご支援、ご協力がぜひとも必要です。編集委員はとりまとめ役で、全会員が皆で雑誌を作るのだ、という気持が生まれれば、すばらしい雑誌になるでしょう。

(3) 具体的な編集のアイデアとしては、つぎのようなものがあります：文献抄録・書評の充実；気楽に投稿できる、さまざまなテーマによる「コーナー」の設置；学校や企業のいろいろなニュースの充実；自由な編集による解説・随想等の拡充。

(4) 前項の文献抄録は、世界主要雑誌の論文の簡潔・迅速な抄録をめざし、事例的・概念的な論文はできるだけ網羅する；数学的なものは、細かいテーマ別に、年1回ぐらいの割合で掲載する総合報告にリストとして付ける、といった形が一例として考えられます。書評はある期間内に出たあるテーマの本を合評したらおもしろいと思います。